

藻類が多く発生するようになってきているが、スプリングラー、ドリップ灌漑等の散水効率に障害をもたらすためにその防止対策が急がれている。藻類の発生は水質と温度条件に支配されるので、気象的な観点からの研究も始められている。

### 3. 今後の計画

世界陸地面積の約1/3を占めている乾燥地は地球上に残された最大の未利用地で、その有効利用が望まれているにもかかわらず開発をはるかに上回る速度で砂漠化が進行している。砂漠化は乾燥地帯を中心に世界各地に広がっているが、その多くが開発途上国である。近年これらの地域にも爆発的な人口増加が起こり、これに対処するための開発が急速に進められている。水利施設、緑化、農地造成という図式に基づく食糧増産のための大規模開発計画が各地で実行に移され、すでに完了して生産量の飛躍的な増大を見ているところも少なくない。ところがこのような大開発が乾燥地の自然環境や生態系にどのような影響をもたらすかについての評価や災害防止対策については、いまだ十分対応しうる段階に達していないのが現状である。事実各地に大規模の土壌侵食や塩類

集積が起こって砂漠化の大きな原因になっている。

砂漠化の原因を自然条件に求めるか、あるいは人為的な条件に重きを置くかは、砂漠化現象をどのように認識するかによって、また発生した時代や対象になる地域によってその発生機構が異なっているため、これを一律に論ずることは出来ない。しかし今日の砂漠化をみる限りこれら二つの条件が複合し、しかも両者の加害力の相乗作用によって加速度的に進行しているものと見なすことができよう。

開発と保全という複雑でしかも解決が困難な今日の乾燥問題は、いまや世界共通の課題であり国際的な協力に俟たなければならない深刻な事態になっている。

当研究施設ではこれまで十数年にわたって乾燥地に関する研究に携わっており、ささやかな規模ではあるが現地における研究協力も行って貴重な経験と多くの知見を得てきた。

われわれはこれらの研究をさらに積極的に、そしてより総合的に行うべく、数年来にわたって研究施設の再編整備を検討してきた。その名称も「乾燥地研究センター」に改められ全国共同利用施設として平成2年度からの発足が内定している。

## 講演企画委員会からのお知らせ——「スペシャル・セッション」のテーマ募集

平成2年度秋季大会（大阪）のスペシャル・セッションを下記の要領で募集します。テーマや申込総数によって講演企画委員会で調整をする場合もあり得ますので、ご了承下さい。

**記入事項：**1. セッションのテーマ

2. 趣旨説明（400字程度）

3. 呼びかけ人およびその連絡先

以上は秋季大会告示の際に「天気」に掲載されます。

**申込先：**〒305 茨城県つくば市長峰 1-1

気象研究所 予報研究部内

講演企画委員会（藤部文昭）

**申込期限：**2年4月16日（月）必着

なお、スペシャル・セッション等に対するご意見・ご要望がありましたら、随時講演企画委員会（上記宛て先）へお寄せ下さい。